

そだ
「粗朶」がむすぶ豊かな里山とやさしい河川

防災の 森づくり 川づくり

昨今増加している「ゲリラ豪雨」による水害の原因が山の荒廃や環境破壊にあると言われています。被災地支援などの災害救援・防災の啓発に取り組むNPO法人レスキューストックヤードは2010年度、この問題に正面から向き合う事業を始めました。災害ボランティアの方々と岐阜県の里山に入り、かつて農閑期の農家が当たり前のように行ってきた山の手入れである「粗朶（そだ）」づくりを体験。それらを活用して河川の護岸整備にあてる「粗朶沈床工（そだちんしょうこう）」などの伝統的な川づくりについても学ぶことができました。1年間の事業の成果を報告するとともに、「山と川のつながり」「環境と防災の関係」を考える会を開きます。

主催：特定非営利活動法人 レスキューストックヤード
後援：国土交通省中部地方整備局、愛知県、岐阜県
2010年度 セブンイレブンみどりの基金助成事業

事業報告会

2011年
2月27日 Sun

13:30~16:30

名建協1階会議室
(名古屋市東区1-13-34)



参加無料・申込不要

内容

1. 「防災の森づくり 川づくり」
事業報告
2. 山陽小野田市社協・金光康資
事務局長講演
3. ワークショップ「山と川から
環境と防災を考える」

【粗朶(そだ)とは】 里山の雑木を束ねたもの。日本では昔から薪(まき)などの燃料として使われてきましたが、明治期にオランダ人土木技師デレーケが粗朶を複雑に組み合わせることで川の護岸の基礎に生かす「粗朶沈床(そだちんしょう)工」を日本に導入。昭和40年代ごろまでは各地の里山で農家が農閑期の作業として「粗朶づくり」に励み、木材業者などがそれを用いて河川工事を行っていました。そこでは里山の保全が川の整備、つまり水害に対する防災・減災につながっていたのです。しかし高度経済成長にともなって河川整備はコンクリート工法が主流となり、里山では農家が減って森林の手入れができなくなりました。岐阜県では全国でも数少ない粗朶の生産とそれを活用した河川整備がいまだに行われていますが、その継承も危うくなっています。

2010年 6月27日 第1回シンポジウム
(名古屋・栄)



7月10日 粗朶づくりの里山見学
(岐阜県揖斐川町)



8月6日 不定期学習会「近自然河川工法と防災」
(名古屋・名建協)



10月16～17日 生物多様性交流フェア出展
(名古屋国際会議場周辺)

11月13日 粗朶づくりの基本講習
(岐阜県関市など)



12月5日 連柴(れんさい)づくり講習
(岐阜県本巣市など)



2011年 1月31日～ 河川伝統工法の実験設置
(名古屋・矢田川)



【主催・問い合わせ先】 特定非営利活動法人レスキューストックヤード

〒461-0001 名古屋市東区泉 1-13-34 名建協 2階

WEB: <http://rsy-nagoya.com/>

TEL: 052-253-7550 FAX: 052-253-7552

MAIL: info@rsy-nagoya.com